

竹内家邸宅は江戸時代（1603-1867）から残存する栗賀町の二つの建物のうちの一つである。竹内家は商人で町の地域の盟主であった。屋敷の玄関にある部屋は、茶、醤油、酒など含む商品を売る店舗として使われていた。屋敷の裏には今では一つしかないのだが、製品を保管する4つの倉がたっていた。「仙霊茶」として知られている特別な種類のお茶を売っていた。今日でも地元の特産品として「仙霊茶」という緑茶を生産し続けている。